

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム まえさわ苑折居館

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500238		
法人名	社会福祉法人 つつじ会		
事業所名	グループホーム まえさわ苑折居館		
所在地	〒029-4201 岩手県奥州市古城字北館21-1		
自己評価作成日	令和6年10月15日	評価結果市町村受理日	令和7年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム職員は、ほぼ同じメンバーのまま長い年数に在籍している為、利用者、家族の方々との関わりも馴染みの関係であり、話しやすい雰囲気、信頼関係を築きやすい状態が続いています。コロナがら感染症に移行されてから、行動制限も緩和された為、少しずつ外出支援や家族との交流を再開しています。面会時に家族の方から、入居してから「元気になった」「若くなった」「出来る事が増えた」と話していただく事が多く、職員のモチベーションが上がるお言葉をいただいております。施設は、国道4号線、鉄道が通る近くにあり、東に山々、周辺には田んぼがある事から、とても良い景色を眺める事ができます。山の色づき、稲作の様子を見る事により、四季を感じられる立地となっています。また、特養と併設されている事により、利用者同士の交流があったり、職員間での協力が得られやすい等のメリットも多い環境となっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は奥州市南部の国道4号線沿いの緑豊かな田園地帯の中に立地している。同じ建物内に母体となる社会福祉法人の特別養護老人ホームが併設され、同ホームから看護師や管理栄養士との協力が得られるほか、防災体制も一体的に整えられ利用者の避難誘導や初期消火等に万全を期すなどのメリットが大きい。重度化した場合には同ホームへの入居も可能であり、将来に対しての利用者の不安軽減にも繋がっている。コロナ禍で控えていた外出機会も季節ごとの近郊へのドライブ、花火大会見物、家族との外出など少しずつ増えている。食事は三食とも職員の手づくりで、季節感を大切にするとともに誕生食も本人の希望を聞いて提供しており利用者の満足度も高い。玄關などで家族との面会も可能となり、四半期ごとに法人が発行する広報誌の中で事業所の日常生活や行事の様子を伝えているほか、面会の少ない家族には請求書を毎月送付する際に居室担当者が作成したお便りを同封して心配の払拭に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年11月15日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人施設理念については、グループホーム会議にて毎回職員全員で唱和し、振り返りを行なっています。また、理念を基にグループホーム独自の支援目標を4ヶ月ごとに設定し、取り組んでおります。	母体の社会福祉法人の施設理念と事業所開設当初に事業所で独自に策定した理念を2か月毎に開催するグループホーム会議で全員が唱和している。これら理念に基づき毎年4か月ごとに具体的な目標をつくり、それぞれの期間終了後に全職員が結果を総括し、次期目標に反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症予防対策による規制が継続している為、まだ直接的な交流は再開できていませんが、地元の中学生から利用者一人一人にバースデーカードやクリスマスカード、年賀状、手作りうちわを届けていただいています。また、近所の方から野菜の差し入れがあり、支援を頂きながら交流を続けさせていただいています。	事業所がある地域ではコロナがまだ終息していないため、地域との交流再開には十分至っていない状況である。そうした中でも地元の中学生がバースデーカードなどを届けてくれたり、近所に住む利用者の家族が雪かきを手伝ってくれるほか、事業所の周辺を利用者が散歩する際に声掛けしてくれる住民もいるなど、交流は途切れてはいない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習や職場体験の受け入れは可能な状況ではありますが、感染症の発生や、他のスケジュールとのタイミングが合わず、対応を見送らせていただいております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染状況を見ながら開催しておりますが、令和5年度、6年度については、書面開催ではなく、参集形式での開催を続けています。行事や職員研修の場にも参加していただいたり、運営についての報告、相談を行ない、委員の皆様から意見や提案をいただくようにしております。	委員は利用者、家族、地域住民の各代表及び前沢総合支所の職員で構成されバランスのよい構成になっている。会議では事業計画、利用者の状況、待機者数などの報告のほか、委員相互に情報交換を行っている。9月の第3回会議の日には事業所の敬老会に委員にも参加してもらい、事業所の取組みへの理解を深めてもらうとともに意見や感想を伺っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員として会議に参加していただいている市の担当者の方に、事業所の運営状況を報告し、アドバイスをいただくようにしています。	前沢総合支所市民福祉課職員が運営推進会議の委員に就任し、行政情報などの提供を得ている。要介護認定申請を代理で行うため職員が同支所に直接出向しているほか、まえさわ地域包括支援センターとは入所希望者の相談など日頃から連携を図っている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まえさわ苑折居館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会にて毎月会議を開催し、内部研修、アンケートによる職員の意識調査を行ない、身体拘束に対する考え方、支援方法の振り返りを定期的に行なっております。	以前は法人本部と合同開催の身体拘束廃止委員会を、現在は事業所独自で毎月開催している。毎回テーマを決めて話し合い、身体拘束に関する理解を深めている。内部研修の一環として車椅子に職員が乗って操作したり利用者の気持ちを学ぶ機会を持ち、また、毎年度実施するアンケートを通じ、日頃の自分の態度や考え方を職員自身で振り返っている。スピーチロックに該当した場合には、管理者がその場で注意している。身体拘束の事例は無い。離床確認のベッドセンサーを3名が使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止検討委員会により、自己チェックシートでの振り返りを職員全員で行なう内部研修を実施したり、虐待防止に関する勉強会を行なっております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度により、代理人を弁護士の方に依頼している利用者の方が1名おられます。制度の内容について、まだ知識不足な点があると思われるので、今後も理解に努めながら支援を継続してまいります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、家族に対する説明を行なうとともに、可能な限り利用者本人にも伝えていただき、グループホームで生活する事を理解、納得していただくようお願いしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの要望等は、速やかに職員へ周知し、上司への報告、相談を行ない、検討、改善に努めております。	利用者及び家族の代表が運営推進会議の委員に就任し、意見を述べている。コロナ禍で控えていた家族との面会制限も緩和して来所の機会が増え、電話で家族に連絡する際にも要望などを伺っている。面会に来れない家族には、毎月請求書を送付する際に写真付きのお便りを同封して利用者の近況をお知らせしている。利用者、家族から出された意見は職員が共有して運営に生かしている。	面会にほとんど来れない家族には毎月請求書にお便りを同封していますが、今後は全家族に送付し、併せて職員の異動状況の情報も付け加えることを期待します。

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まえさわ苑折居館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務や各部署、委員会等の会議の中で出された提案、意見、質問について、関係者との話し合いにて運営の反映につながるよう取り組んでおります。	日々の業務の中で職員から提案等を受けることを基本としている。さらに2か月に1回開催する職員会議でも聞く機会を設けているほか、必要の都度個別に面接している。勤務時間の変更希望のほか、行事のアトラクションの提案、転落防止のため階段入口への柵設置、食事メニューの提案など運営面での建設的な案が出され、可能な限り実現を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働状況等について把握に努め、必要に応じて上司との相談、会議での話し合い、個人的に面談を行う等し、職員の仕事に対するモチベーションの維持に向けた働き掛けを行なっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、各委員会が中心となって定期的に研修を実施し、専門的な技術、知識の向上に向けた取り組みを行なっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人としては他事業所との情報交換は行われていますが、グループホーム独自としては、そのようなつながりは持っておらず、今後の課題としたところであります。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接での本人、家族、ケアマネジャー、今まで利用していた施設職員からの情報を基に接しながら、利用者に必要な支援を職員で話し合い、統一したケアを行う事を心掛けております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込みをされる段階から詳しく利用者、家族の状況、要望等を把握し、入居時には、現状を聞きながら一緒に支援方法を考えていけるよう働き掛けています。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まえさわ苑折居館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の話し合いにより、必要としている支援をケアプランに取り入れますが、利用者の状態に合わせ、再度家族との相談を行ないながら検討するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれが出来る事を役割としてお願いし、家事作業等を職員と一緒にこなしています。利用者同士、そして職員との持ちつ持たれつの関係、思いやりの気持ちが表れていると実感しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナが5類に移行した頃から、家族との通院、外出の様子を見ながら再開しています。また、面会や電話での会話をこなしてもらうよう働き掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出規制が少し緩和されたので、家族以外の方々と会っていただく事も増えてきています。本人、家族の希望により、親しくしていた近所の方の葬儀に出掛けられた方もおられます。	コロナ禍で制限していた面会も緩和され、玄関先や会議室で家族と対面して会話する機会が増えている。自宅の様子を見たい利用者を車に乗せて自宅の前までドライブしたこともある。親戚や知人が定期的に訪れる利用者もいる。入居前に愛飲していた茶や黒酢を引き続き飲めるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性に配慮が必要な場面が多い為、食事席の検討、行事活動、散歩メンバーの組み合わせ等を工夫しながら関わり支援を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に移行された場合でも、同じ施設内なので、交流しやすい環境となっています。入院により退居された方についても、相談事や、書類、写真等の依頼があれば対応させていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に楽しく会話をする事を心掛けながら、利用者の思いや意向を聞き取れるようにしています。特に、入浴時や部屋での会話はゆっくりと話せる為、傾聴しやすい雰囲気であり、様々な思いを聞ける機会として、意識しながら接しております。意思疎通が困難になってきた方については、これまでの生活を見てきた状態から考えて対応しております。	平均介護度が2以下でほとんどの人が意思疎通が可能である。日常の会話を通じ希望、意向を聞き取っている。入浴時は1対1でコミュニケーションをとれる時間であり、本音を聞き出すいい機会となっている。年に2回来訪する介護相談員が利用者から聞いた要望も職員が把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人、家族や親戚の方々から得た情報の把握に努めています。内容は職員間で共有し、支援方法に役立てています。また、認知症の行動、言動に結びつく内容であれば、利用者への理解につながる情報となっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、利用者の様子観察をしっかりに行ない、状態の変化にすぐ気付くよう努めたり、利用者が出来る事を見出し、今後の暮らし方、活動につなげていけるよう心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行ない、6ヶ月ごとにサービス担当者会議を開催しています。参加者は、家族、担当職員、看護師、ケアマネジャーです。家族の参加率は高く、様々な情報を得られたり、ご意向を把握する事ができています。利用者の状況をお伝えしながら、ケアプランの見直し、作成を行っております。	担当職員のアセスメントに基づきケアマネジャーがモニタリング評価を行い、6か月ごとに開催するサービス担当者会議に家族、担当職員、特養ホームの看護師、ケアマネジャーが出席し、出された意見を反映した計画を作成している。計画期間は、短期では6か月、長期では1年としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の他、申し送りノートを活用しながら、速やかに情報共有を行ない、日々の支援に反映できるよう取り組んでおります。また、急ぎの情報、連絡については職員間のグループラインを活用しています。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まえさわ苑折居館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の状況や要望に応じて、通院、買い物他、相談内容により出来る限りの対応を行っており、時間外での対応となる場合も多々あります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアの受け入れはまだ控えさせていただいておりますが、市から派遣されている介護相談員の受け入れは再開しており、利用者との面談を行っていただき、より良い支援につながるよう取り組んでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医、本人、家族の希望による医療機関にて受診できるよう支援しております。利用者の状態が低下し、通院が困難になってきた場合は、協力医療機関による訪問診療を受ける事を提案させていただいております。	4人の利用者は入居前からのかかりつけ医を受診しており、家族には受診の際に事業所から情報提供のメモを渡し、さらに受診結果を家族から確認している。他の5人は通院困難なため協力医療機関による訪問診療を受診している。眼科など内科以外の科目については基本的に職員が同行している。インフルエンザやコロナワクチンは全員が協力医療機関で接種している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、グループホームに看護師は配置されていませんが、併設の特養看護師の協力を得て、基本情報の他、バイタル、体重等の把握を依頼したり、朝夕に利用者の状態報告、相談を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	事業所の協力病院については、病院の医療連携室の看護師との情報交換に努めています。その他の病院についてもソーシャルワーカーとの情報交換、相談を行ないながら、退院後の生活に役立てています。		

事業所名 : グループホーム まえさわ苑折居館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームでの生活が困難になってきた場合については、入居時の説明の中で、特養へ移行する事が可能である事をお伝えしております。また、急変時、終末期の対応についても、あらかじめ確認を行なっております。	入居時に本人及び家族に対し、事業所では看取りを行わない方針であり、将来重度化した場合には、同じ建物に併設されている特別養護老人ホームに移送となることを話し、同意を得ている。特別養護老人ホームでの勤務経験のある職員は急変時の対応などに慣れており、他の職員も見習うことが出来るメリットがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議や研修の中で、医療に関する資料を基に対応方法を理解し、実践できるよう務めています。頻度が少ない為、定期的に研修を行なっていくよう務めてまいります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いのもと、昼夜それぞれの時間帯を想定した火災避難訓練と非常招集訓練を各2回、消火訓練を実施しております。	昼夜を想定した火災避難訓練を年2回消防署立会いのもとで実施しているほか、緊急連絡網により非常招集訓練も年2回実施している。後者の訓練では30分以内に全職員が参集している。避難場所は近くの公民館を想定している。法人併設の特養ホームと一体的に自衛消防隊を編成し、職員が分担して利用者の避難誘導、初期消火等に万全を期している。ハザードマップで浸水想定区域にはなっていない。備蓄は食糧1週間分のほかガスコンロなども備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の性格、生活歴等を把握し、声掛けや傾聴の仕方、対応に配慮するよう心掛けています。対応方法については、職員間での話し合いの中で、振り返りや検討を行ない、より良いケアにつながるよう務めております。	管理者が個人情報と文書管理の責任者となって個人情報の保護を徹底している。法人発行の広報誌に事業所欄のページを設けているが、利用者の写真を掲載する場合の同意は予め本人及び家族から得ている。排泄失敗時には周囲に気づかれないようにシャワーを使って居室で着替えをしている。職員が入室するときはノックと声掛けをしている。入浴時の異性介助については予め同意を得ている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まえさわ苑折居館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との信頼関係を深め、話しやすい雰囲気作りを心掛けています。自ら話しをする事が少ない方については、職員から意識的に声を掛け、思いや希望を伝えてもらうよう働きかけています。また、意思疎通が困難になった方については、今まで過ごしてきたご本人の様子を振り返りながら、職員が思いや希望をくみ取るようにし対応しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者の調子、気分に合わせて臨機応変に対応する事を心掛け、入浴や睡眠、休憩、食事等の支援を行なっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際は、可能な限り利用者本人に服選びを行なっていただいたり、外出や行事の際は、化粧の支援を行なう等、その方に合った方法で取り組んでいます。衣料品店に依頼し、館内での買い物会を実施し、利用者が衣類の買い物を楽しむ機会も設けております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好み、季節に合った献立作りを心掛け、食事を楽しんでいただけるようにしています。食事の準備、片付けは参加可能な利用者へ手伝っていただいております。また、メニューを食事前に掲示したり、職員が説明をし利用者が確認しやすいようにしています。	職員の手づくりによる食事は利用者にとって大きな楽しみの一つとなっており、満足度も高い。誕生会の食事は、本人の希望を聞いて昼食やおやつを提供している。行事食は季節の食材を提供している。夏はさんまを中庭で焼いたり、秋は栗ご飯を提供して季節感を楽しんでもらっている。食後の茶碗やテーブルの拭取りなどを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食記録をとり、状況把握に務めています。摂取量が少ない場合はその都度、申し送りを行ない、必要に応じてカロリー、水分を補う物を提供するよう随時支援を行なっています。また、糖尿病、高血圧の方の食事にも配慮しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に合った方法で口腔ケアを実施しています。様子を見ながら、歯ブラシの素材、歯磨き剤の内容を検討しながら常に清潔を心掛け、全身の健康維持につながるよう支援しております。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まえさわ苑折居館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、職員間の申し送りを密にする事で、トイレ誘導のタイミングを見計らっています。入居前は、家族の都合により紙パンツを使用していた方で、入居後の様子から布パンツに切り替えたケースもあります。ADLが低下してきた方も、可能な限りトイレでの排泄を支援しています。	排泄チェック表を活用して一人一人声掛けや誘導を行っている。排泄が自立している人は4人、見守りは1人、介助を要する人は4人となっている。布パンツは3人、他はハビリパンツ(パット併用を含む)である。入居前に紙パンツだった人が布パンツに改善した例もある。ポータブルトイレの利用者はない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便状況を常に把握し、水分摂取を勧めたり、提供するタイミングを工夫し、便秘改善に取り組んでいます。また運動やマッサージも実施しながら予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が好きな方が多いので、できるだけ入浴を楽しめる工夫を行なっています。様々な入浴剤を使用したり、歌をうたいながら入る等し、喜んでいただいております。	入浴は1人週3回とし、体調などにより午前又は午後可能としている。菖蒲湯や柚子湯のほか、バラやミントの花などを浴槽に浮かべている。入浴中に音楽をかけて楽しむ人もいる。入浴は職員と1対1でコミュニケーションをとれる貴重な時間であり、世間話に花が咲くことがある。自分の好みのシャンプーを使用したりクリームを塗る人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の様子を見ながら休息や就寝を勧めています。寝具の使い方についても、利用者一人一人に合わせた支援を行なっております。休息の場所も本人の希望に合わせた所で休んでいただくようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居時に薬の内容を確認し、注意事項等の把握を行ないます。通院時に薬の変更があった場合もすぐ職員に周知し、申し送りノートの隣に常に置いてある薬説明書のファイルで確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人の状態に合わせた活動、楽しみ事、得意な事を支援できるよう取り組んでいます。季節ごとの行事を企画し、活動的に過ごしていただけるよう支援しております。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まえさわ苑折居館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ以前のような外出はかなり少なくなっていますが、人混みを避けたドライブを実施したり、家族との外出を再開しています。	天気の良い日は春は水沢公園や巖美溪まで足を延ばした花見ドライブ、夏はあじさいドライブ、市内のオープンガーデン見学、前沢花火大会見物、秋は田んぼアート見学や紅葉ドライブに出かけている。コロナ禍で外食はまだできないが、毎月2回家族と一緒に外出する人もいる。自宅の様子を見たい利用者を車に乗せて自宅の前までドライブしたこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持している方もありますが、買い物をしたいという希望がある方は現在おられません。持っているだけで安心という様子の為、家族との確認のうえ所持していただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	面会規制は少し緩和されていますが、以前のように自由に部屋へ入っていただく事はできていない為、家族への手紙、電話でのやり取りを支援しております。年賀状、暑中見舞いはがきを書く事もお手伝いさせていただきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの装飾を行ない、四季を感じていただくよう取り組んでおります。明るさ、温度等には特に配慮を行ない、常に利用者の方々に確認しながら調整を行ない、快適に過ごしていただけるようにしています。	壁や天井は白を基調として明るく落ち着いた雰囲気である。南向きの大型の引き戸から光が入り、明るく広々としたロビーには食食用テーブル、ソファ、大型テレビが設置され、利用者は、思いの場所でくつろいでいる。壁には利用者の作品のほか、紅葉を模した飾りが掲げられている。母の日には、カーネーションなどの差し入れもある。温度は、床暖、エアコン、乾燥する冬場は加湿器で適正に管理されている。清掃が行き届き、清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事で皆一斉に集まる時間とは別に、リビングの席やソファ、日当たりの良い場所でゆっくり新聞を読んだり、昼寝をする方もあり、くつろげる場所で過ごしていただいております。また、ベランダ、1階廊下、玄関外のベンチ、他利用者の部屋で楽しく会話をし、場所を変えて気分転換できるよう支援しております。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まえさわ苑折居館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時に、自宅で使用していた使い慣れた物、 好みの物を持って来ていただくようお願いして おります。旦那様の位牌や写真、家族の写真をお 部屋に置き、話し掛けている方もあり、安心感に つながっています。	居室は比較的広く、壁や天井は共有空間と同じく 白を基調として落ち着いた雰囲気である。ベッ ド、整理タンス、床頭台、床暖、洗面台、エアコン が備え付けられている。利用者はテレビ、衣装 ケースのほか、家族写真、位牌、観葉植物など の自分が好きなものを持ち込んで居心地よく過 ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	部屋、トイレ等、場所の確認が難しい方々に、わ かりやすい表示を工夫しています。皆で確認でき るので、利用者同士で教え合う姿も見られます。		